

## 災害に強い県土づくりに向けた社会基盤の整備を求める意見書

去る、6月21日に指宿市岩本でJR九州の観光特急「指宿のたまて箱」が大雨で崩れた土砂に乗り上げ、脱線し乗客乗員15人が重軽傷を負い、うち3人が入院したところである。

国土交通省運輸安全委員会は、土砂流入が主な原因とみられるが、規制や点検など運行管理に問題がなかったか調査するとのことであった。

現場は、土砂崩れや倒木による脱線事故が相次ぐ区間だったが、JR九州が定期的に行う点検では、要注意箇所には指定されていなかった。同社は陳謝し、「要注意箇所の指定基準の見直しを検討する」とした。

当県では、本土の大半が水を含むと崩れやすいシラス等の特殊土壌に覆われ、JR沿線に限らず、このような危険箇所が県内には多数あるため、事故や災害等が発生しないよう、これまでの災害の経験を貴重な教訓として、災害に強い県土づくりに向け、広域的な交通ネットワークの整備や、大規模災害に備えた防災・減災対策や耐震化、社会資本の老朽化対策を加速度的に取り組むことで、再発防止に向けた十分な対策を講じていただきたい。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成26年7月4日

鹿児島県議会議長 池 畑 憲 一

衆議院議長  
参議院議長  
内閣総理大臣  
総務大臣  
財務大臣  
国土交通大臣  
農林水産大臣  
内閣府特命担当大臣(防災)

殿